

# 学力向上に効果のある取組事例

別府市立緑丘小学校

## ①「基礎的・基本的な知識及び技能の習得」に向けた取組

### 取組の具体①: チェックテストを核とした組織的取組

#### 【取組内容】

##### (1) チェックテスト

- ・チェックテスト後に学習内容の定着状況を確認し、授業時の再指導、宿題での指導、補充学習（みどりタイム）、長期休業時の課題としての取組等を実施した。
- ・2、3学期始チェックテストでは、実施前までの指導・支援の効果や定着状況を再確認した。

※チェックテストの実施にあたり

- ・各学期末まとめテスト（低学年：国算、中高学年：国算理）を行う。
- ・R6は「目標点80を超えた児童数比が「知識・技能」では学級の70%以上、「思考・判断・表現」では学級の60%以上」を目標に実施している。

##### (2) その他の取組

- ・チェックテストに関する目標や取組は4点セットに明示し、各教職員の目標管理シートとも連動させる。
- ・「家庭学習の手引き」を利用し、保護者との連携を図り、家庭学習の質を高めるとともに、児童の自発的計画に基づく取組につなげる。
- ・補充学習（みどりタイム）を週1回実施する。
- ・授業改善として、国語、算数、理科において「意見を交流し、共感的人間関係を育む時間を設定した授業」を実施時数の60%以上実践している。
- ・チェックテスト用Excelファイルを教務主任が管理。学級や学校の目標達成状況、得点分布等を確認して指導・支援に活かすようにしている。

#### 【1年間の取組の流れ】

##### ○1学期末チェックテスト

- （1学期学習内容の定着状況の確認）  
↓ 達成状況、職員取組状況確認

##### ○2学期末チェックテスト

- （2学期学習内容の定着状況の確認）  
↓ 達成状況、職員取組状況確認

##### ○3学期末チェックテスト

- （3学期学習内容の定着状況の確認）  
↓ 達成状況、職員取組状況確認  
次年度1学期始チェックテスト

### 取組の具体②: チェックテストの分析を学年の取組につなぐ

#### 【チェックテストの結果と4点セットの評価および学力向上プランの達成指標との連動】

##### (1) チェックテストの結果を学年ごとに出し、そこから全校結果を導き、4点セットの評価につなぐ。

###### ① 本年度1学期のチェックテスト（知・技）の結果（学力向上プランの達成指標）

結果 目標達成児童の割合が70%を超えた教科数は27中20であった。  
達成率は、90.9%で、評価はAである。

###### ② 本年度1学期のチェックテスト（思考・判断・表現）の結果

結果 目標達成児童の割合が70%を超えた教科数は27中21であった。  
達成率は、95.4%で、評価はAである。

###### ③ 以上の結果・分析から学校全体の取組を検討する。

「思考・判断・表現」の達成率は、95.4%であることから、「知識・技能」同様、ほぼ定着していると考えられる。しかし、算数科では、10教科中4教科で60%達成ができていないことから、「知識・技能」同様、算数的思考力の積み上げが喫緊の課題となる。このことに対しては、各学年の見直しから、課題点を明らかにし改善するための取組を行う必要がある。

学校全体として、低くなっている要因の1つとして、知っている知識を自分なりに考え表現がうまくできていないことが考えられる。「思考・判断・表現」の不足を補うために、今年度は4点セットには『学級・教科担任は、1学期に1単元以上、タブレット端末による『表現方法』を用いた授業を実施する。（5～7月）』を設定した。

教職員アンケートでの達成率は、93.8%である。このことから、タブレットを利用した「表現方法」を用いた授業改善は進んでいるが、それが、個人レベルでの「思考・判断・表現」力の育成につなげるには、さらなる改善が必要である。

「知識・技能」にかかる授業時間数と、「思考・判断・表現」にかかる授業時間数のバランスも含めて、今後校内研究・研修を通して改善していく必要があると考える。

## (2) 全校分析から学年分析へ(5年生の例)

### ① 本年度(例:5年生)のチェックテストと大分県学力状況調査の結果分析と今後の取組について

#### 1学期末のチェックテスト達成割合

##### (国語)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0.0%	0.0%	6.3%	16.7%	77.1%	77.1%
思考・判断・表現	2.1%	2.1%	4.2%	20.8%	70.8%	70.8%

##### (算数)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0.0%	4.0%	12.0%	32.0%	52.0%	52.0%
思考・判断・表現	6.0%	18.0%	18.0%	30.0%	28.0%	28.0%

##### (理科)

正答率	0～20%	20～40%	40～60%	60～80%	80～100%	目標得点達成率
知識・技能	0.0%	0.0%	4.0%	8.0%	88.0%	88.0%
思考・判断・表現	0.0%	0.0%	12.0%	14.0%	74.0%	74.0%

#### 大分県学力定着状況調査結果

【5年生】	国語			算数			理科		
	正答率	知識	活用	正答率	知識	活用	正答率	知識	活用
学校(A)	69.8	70.2	68.9	72.7	77.3	64	72.5	77	62.1
別府市(B)	66.1	65.8	66.7	68.1	72.5	59.8	65.2	71.7	50.2
県(C)	67.3	67.1	67.8	69.2	73.8	60.4	64.9	71.8	48.9
差(A-B)	3.7	4.4	2.2	4.6	4.8	4.2	7.3	5.3	11.9
差(A-C)	2.5	3.1	1.1	3.5	3.5	3.6	7.6	5.2	13.2

#### ① チェックテスト(知識・技能)について

国語では、正答率60%～80%の子どもが16.7%いた。躓いているのは漢字の読み書きが多かったので、授業の初めに小問の確認テストをするなどして定着を図っていききたい。また、正答率40%～60%の子どもたちの中には、宿題の取り組み方がい加減になっている状況があったので、小問テストにより取り組みへの意識を高めていきたい。算数では、小数のわり算で商の見当をつけたり小数点をつけ間違えたりすることや、体積でかけ算の計算ミスや必要な長さを捉え違えることが多かった。みどりタイムや宿題などで、適宜復習を図っていききたい。

#### ② チェックテスト(思考・判断・表現)について

国語と理科では、目標得点80点以上の児童の割合が70%以上と積み上げの成果が表れている。子どもの理解度を見極めながら毎日の授業内容の工夫が基礎的・基本的の学習定着に繋がったと考えられる。

国語では、正答率が60～80%の児童が約20%、それ以下の児童が約10%であった。問いに対する答えが足りなかったり文章から登場人物の気持ちを推察できなかつたりする間違いが見られた。丁寧に読み取れば正答率の向上が見込まれるので、週末の課題に読み取りのプリントを出したり授業中のペア学習で教科書の本文を根拠に考えを述べさせたりしていく。

算数では、目標達成には及ばなかった。子どもたちが躓いた問題は、少数のわり算での立式・筆算・余りの小数点のつけ方や、体積での内りを求めてから立式するといった問題であった。練習問題の不足と読み取りが浅かったことが課題であると考えられる。5年生は学習内容が多いので、2学期は進捗を進めながら、みどりタイムでの補習と教え合いや家庭学習で今後も既習事項の復習に取り組む必要がある。

#### ③ 大分県学力状況調査の分析

3教科とも市、県正答率をともに上回っていた。みどりタイムや家庭学習で既習事項の復習に取り組んだ成果と言える。全国正答率を下回っていた問題は、【国語】・漢字を読む(-5.6P)・漢字を書く(-3.7P)であった。【算数】・小数第1位+小数第2位の計算ができる(-9.4P)・身近にあるもののおよその面積を理解している(-12.4P)・垂直な直線を理解している(-5.6P) 伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求めることができる(-2.4P)であった。【理科】・気温をはかる条件と百葉箱の作りについて理解している(-11.2P)であった。

学力テストの結果からも、前学年までの学習内容をより一層定着させるとともに、活用問題に対応できるよう授業改善を図っていく必要がある。